

金井延とフェノロサ

史料紹介を兼ねて（補遺）

富 善 一 敏

はじめに

筆者は東京大学経済学部資料室年報第 10 号（2020 年）に、「金井延とフェノロサ：史料紹介を兼ねて（上）」を執筆し、その 2.1 として「金井延日記中のフェノロサ関係記事」を掲載した。しかしながら、年報刊行後に金井延日記の翻刻を行う中で、記事の脱漏や誤読箇所が多数発見された。本関係記事の重要性に鑑みて、修正したものを今号に補遺として再度掲載させていただくことを編集部にお願ひし、快諾を得た。本号に掲載した「金井延とフェノロサ：史料紹介を兼ねて（下）」及び今後の考察の際には、第 10 号に掲載した不完全な翻刻ではなく、今号の翻刻を基本とする。読者の皆様に深くお詫び申し上げる次第である。

掲載にあたっては、原文のまま翻字を行い、適宜読点及び並列点を付した。各史料の冒頭にタイトル及び作成者、形態を（ ）及び縦×横のセンチメートルで記した。記事の前に月日と曜日を（2 月 6 日 金）のように付した。「㍿」は「より」に直し、文中のアンダーラインや圏点はそのままと記した。筆者による注記は〔 〕で記した。

金井延日記中のフェノロサ関係記事

明治 13 年

（「自明治十三年一月一日至同年三月三十一日
翻龍日記 一 東京一橋外大學生徒 翻龍金井延」¹、横半帳）

（2 月 6 日 金）

違常、〔以下朱書〕「午后三時より六時マテ共存同

衆洋語討論ヲ聴ク、終ニ至リ余少ク感スル所ロアリテ、洋語ニテ五分間計演説ス、此レ乃チ余ノ英語演説ノ始トイツテ而可哉（是日金子堅太郎、馬場辰猪、菊地大麓、フェネロサ、メンデンホール及ホイットマン出席、其外ノ人ハ欠席、傍聴人ハ只谷村太刀馬、成田鍊吉及余ノミ）」

＊（参考、明治 14 年「蟠龍日記 附会計表」²、
縦帳）

（12 月 1 日 木）

数十日前豫備門第一級理財學科終、教師千頭氏約一級甲（A）組以為社會論講義^{（義）}、余隱聴之欲聴之而、此日第二時間無課業、乃行千頭氏室、與該組聴氏講演

明治 15 年

（「明治十五年壬午懷中日記」³、縦 13×横 8.5 cm）

（2 月 18 日 土）

是日穂積氏課外講義休焉、第四時間（從十一時半至十二時半）ホートン氏行英文學試業、以故不能聴八宗鋼^{（綱）}要講義、是日ジェボン氏論理学書終、以故爾後復不出、於千頭氏教室、從フェネロサ先生學思想之法（Laws of Thoughts）

（2 月 22 日 水）

從前日フェネロサ先生伏病、以故雖當有論理之日、無課業

（3 月 1 日 水）

雖フェノロサ氏既出校、余級論理學課未始

（3 月 4 日 土）

論理學未始、是以此日有法律課外講義與八宗鋼^{（綱）}

要講義耳

（3月8日 水）

フェネロサ氏論理學自此日始、此課也不用課業書、唯因氏之講義耳、氏得妙於講義、余此日初聽之大驚、蓋此課業法理文三學部一年生皆為一組聽講義也、故級甚大矣、フェネロサ氏大驚多數

（3月22日 水）

豫備門第二期試業自是日、而余組此日有法律及論理學（千頭氏）小試業、法律通自八時半至九時半、論理學始於午後一時終於同二時半、無フェノロサ氏論理課業、以第二期試業始於明日也、氏論理學不被試驗於第二學期大試業

（3月27日 月）

論理學試業始於午前十時三十分、終於齡時三十分

（4月8日 土）

自此日課業始於午前八時、余級有時間之替於前学期者三四焉、フェノロサ氏演第三學期第一講、他者皆無課業

（5月10日 水）

フェノロサ氏休課

（6月10日 土）

フェノロサ氏論理學講義以是日全終、次會質問

（6月26日 月）

此日午後一時論理學試業始、與理學部一年級生等集於講義室共受之、蓋此日論理學千頭氏受持與フェノロサ氏受持兩課也、至午後四時全終

（9月21日 木）

フェノロサ氏為哲學第二年級和漢文學第二年級講哲學史、然今尚講世態學、余欲聽之故謀氏、々許、則從此日出、然而一週間有不能出席日一、余不得止出席一週二度

（9月29日 金）

此日ラトギン氏不出校、故出於フェノロサ氏講義、蓋此日時間二者相抵觸、如出於一不能於他、ラトギン氏講義者余正課也、故常不能出於フェノロサ氏、余每歎之、此日休課余之所最欲也、講義終而、氏勸余等讀フヒスク氏萬有哲學第二卷世態學及

自由意志篇、余故以午後行于蹤覽室讀之

（10月28日 土）

午後五時三十分有學位授與式、余出席、此日受學位級六十二名有、總理加藤弘之、教授穗積陳重、矢田部良吉、三宅秀、教師フェノロサ、文部卿等祝辭、至夜八時三十分式終、有宴會、不許生徒入場、余等竊行取酒肉、飽飲食而慕行、至一時漸就寢

（11月30日 木）

フェノロサ氏講義世態學也、既以前某日終、故自此日入哲學、先說其要、漸進入哲學史、余此日出席

（12月21日 木）

冬期休業既在近、故外山氏課業以此日為最後、フェノロサ氏講義亦然矣、而氏既終說デカール氏哲學、氏近世哲學史中第一人也

明治 16 年

（「明治十六年癸未懷中日記」⁴⁾、縦 13×横 9 cm）

（1月1日 月）

早朝起床、迎春從例規行体操、七時食煮餅祝新正、須臾至八時則出門、行於諸方賀新年、先行於鈴木充美方投名刺、踵行於服部一三、教師フェノロサ、ラトキン三氏家各投名刺而去

（1月13日 土）

前学期中ハウス氏不日出席、故余級不能學英文學、至今學期ハウス氏止來校、豫備門教師コックス氏代之、以每火曜日第一時間及土曜日第二時間教余級、而此日其第一回也、則出席定課業方法（作文）及讀本、而哲學課フェノロサ氏講義同時間也、故變之於他日未定日、此日休課

（1月16日 火）

フェノロサ氏土曜日講義為火曜日第二時間目、余則此日出席、而外山氏在同時、則請氏替之為第三時間目

（2月8日 木）

〔大雪につき〕是以教師中有不來校者、余課フェ

ノロサ氏不来

(2月22日 木)

此日雖出席於フエノロサ氏講義、因井上・三宅二氏行於圖書館、欲借カント氏純理說等之事、別無講義、純理說者自次回講義之傍用也、而不能得之、故時々借他人書讀之

(3月14日 水)

フエノロサ氏課業用カント氏純理論、而余不得借之於圖書館、故佐哲学課第四年学生三宅雄二郎、稱氏用之借受於圖書館、氏諾、此日行得之、余則借之時々讀之

(3月15日 木)

此日フエノロサ氏行平常試業、余故不出席於氏課業

(3月20日 火)

此日余不^(出脱カ)席於フエノロサ氏課業、此日讀佛人ロリエー氏著元老院訣王權論第一冊、其第二冊未出版、右故休フエノロサ氏講義

(3月27日 火)

此日有枕草紙試業、而フエノロサ氏無出校

(4月13日 金)

今学期ラトキン氏無講義、余故得毎金曜日第三時間目フエノロサ氏哲学講義、此日出席、會信夫氏課業在毎金曜日午后二時至三時、則頼氏為午前第三時間、頼フエノロサ氏為第四時間目、皆可焉、於是時間割得余意、而此日無信夫氏課業

(4月24日 火)

此日不出席於フエノロサ氏講義

(4月26日 木)

フエノロサ氏講義休課

(4月27日 金)

此日亦フエノロサ氏課業休

(5月3日 木)

フエノロサ氏亦休課

(5月24日 木)

余欠席フエノロサ氏講義

(5月25日 金)

余再欠席フエノロサ氏講義

(5月29日 火)

欠席フエノロサ氏課業

(5月31日 木)

此日欠席フエノロサ氏課業

(6月1日 金)

此日亦欠席フエノロサ氏課業

(9月13日 木)

此日課業ラトキン氏國法學講義與フエノロサ氏哲学講義(余唯傍聽之耳、非本課)耳、其外未始

(9月26日 水)

フエノロサ氏休課

(10月11日 木)

此日フエノロサ氏止哲学講義告曰、自次回用ワアレズ氏訳ヘーゲル氏論理学

(10月12日 金)

此日フエノロサ氏限余級休課、以三時間講義身体大疲也、且告曰、從次回用彌爾氏理財書第一冊、蓋余等既略畢、讀ケヤーンス氏理財書僅餘地稅論一章耳、故暫止至彌爾氏地稅論、用取ケヤーンス氏書參考兩者而讀之

(10月13日 土)

此日フエノロサ氏未始講ヘーゲル氏論理学、答哲学上質問

(11月10日 土)

此日フエノロサ氏不来校故哲學休課

(11月22日 木)

フエノロサ氏怒余等不用意於課業、不為講義、使余等讀書於氏室、不出於哲学

(11月24日 土)

フエノロサ氏ノ哲学課ヲ欠席シテ、午前九時與志立氏ト共ニ出テ、校ニ行ク

(12月6日 木)

此日有フエノロサ氏理財学試業問題一耳、曰貨物ノ需要ヲ論セヨト、終ル時既ニ晩シ、故ニ大沢氏ニ頼ムテ此日課業ヲ止ム

(12月13日 木)

此日朝宿ヲ出ツルトキ最早八時五分過キナリ、余則チ富坂ヨリ人力車ニ乗シテ校ニ至リ、直チニフエノロサ氏ノ教室ニ至ル、氏余等ニ命シテ再ビ試業ヲ行ヒ、資本増加ヲ論ズトイフ題ナリ、畢リテ大沢氏ノ徒然草試業アリ、第四時間フエノロサ氏哲學課ハ休ナリ

（12月14日 金）

此日フエノロサ氏休課

（12月20日 木）

此日フエノロサ、ラトキン二氏皆ナ告ケテ曰ハク、余今日ヲ以テ今学期課業ヲ畢ハルト、余等大ニ喜ブ

明治17年

（「蟠龍日記 明治十七年一月分」⁵⁾、縦13×横9cm）

（1月1日 火）

〔前略、諸方へ年賀〕其ヨリ本郷文部省用地内ニ名刺ヲ隈本有尚（志立氏ノ名刺ヲ併ス）、教師ラトキン、フエノロサノ三氏方ニ投ス

（1月24日 木）

此日辨当ヲ持ズシテ学校ニ行ク、フエノロサ氏余等ニ命シテ地質論ヲ題トシテ論文ヲ作ラシム、一時間ニシテ止ム、之ヲエキサーサイスト稱ス

（1月25日 金）

此日木下氏（第三^{（時脱カ）}間）メニ改マル）講義受、フエノロサ氏課業休ミナリ

（末尾）

此月月末ノ調べニ因ルニ余ノ所持書籍ノ中ニ友人ニ借ス者左ノ如シ

（中略）

哲学字彙
松本源太郎氏へ
フエノロサ氏世態学講義筆記 仝氏へ
（後略）

（「明治十七年甲申閏年懷中日記」⁶⁾、13×9cm）

（2月2日 土）

此日ノ國際私法課ハ哲学課ト同時ナルヲ以テ出デズシテ、哲学課ニ出ヅ

（2月9日 土）

自此日余不出席於フエノロサ氏哲学講義、出於鳩山氏國際私法課、以其同時也、然火・木兩曜日出席如元

（2月14日 木）

此日寒胃益ス甚シ、余故攝生室ニ行キ服藥ヲ求メ、フエノロサ氏哲学課ヲ出デズシテ、十二時ヨリ寢室ニ入テトス

（2月15日 金）

此日午後一時法学士斯波淳六郎氏新橋ヲ出發スルヲ以テ、木下氏・フエノロサ氏皆休課

（2月18日 月）

曩頼フエノロサ氏変土曜日哲学時間為月曜日第一時間、自此日始、余於是得出席於哲学及國際私法兩課、自此日讀イングリッジ、シチザンス、シリーズ中トレール氏中央政府論

（2月28日 木）

此日フエノロサ氏哲学課ヲ休ム

（3月19日 水）

此日特別ニ八時半ヨリ始メテフエノロサ氏試業アリ、十時半ニ至リテ止ム、余故ニ木下氏ノ講義ニ出席セス

（3月25日 火）

此日三嶋氏出校ナキヲ以テ課業ハ唯タ独乙語ノミ、フエノロサ氏ノ哲學課試業ハ昨今兩日ナルヲ以テ、前週ヲ以テ其講義ノ終リトス

（4月21日 月）

此日フエノロサ氏哲學休課、又送書於三嶋氏、休其課

（4月30日 水）

此日頼岩谷氏、休課其独乙語、三時余外出、行於麴町訪家君、家君曰、善哉々々、予有所告子、期近日將見子、會子來事直辨、余問其改曰、遠弟親睦會員古田新六氏寄書於加藤鼎三、問子知好古面鑒定者、米人フエノロサ氏否、加藤氏亦寄書於予

問之、於子如何、余答曰、フエノロサ氏余教師也、
家君曰、然近日行於古田方告之、余諾、至四時五
十分余賞袴而去

(5月2日 金)

此日亦ラトゲン氏休課、余不出席於木下氏講義、
故此日課業唯フエノロサ氏理財学耳

(5月15日 木)

(欄外注記)「送書於宮岡恒二郎氏」

(5月16日 金)

(欄外注記)「余不在中宮岡氏来、置曩日書状返答」

(5月18日 日)

午前八時三十分行於番町、求遠邇人古田新六氏居、
暫而得即就見、談繪画鑑定之事、至十時辞去

(5月21日 水)

午後三時余外出、訪宮岡恒次郎氏、先至於谷村太
刀馬氏家、尋宮岡氏宿、至則同氏不在、余不得止
空歸舍、是以此日欠席柔術、午後送書於古田新六
氏

(5月22日 木)

古田新六氏答書至、余則諾、フエノロサ氏請古画
鑑定、氏諾曰、土曜日午后二時可来於余家、予曩
告古田氏以午後一時

(5月23日 金)

送端書於古田氏、報訪フエノロサ氏時期改、午後
一時行於向柳原町、訪宮岡恒次郎氏、尋以西洋人
應對之事

(5月24日 土)

午後一時三十分古田新六氏来訪、則共外出、自門
前乘氏人力車、行於本郷文部省用地、訪フエノロ
サ氏、請古画鑑定、全氏所持之画有與古田氏画同
圖者出見、大驚於其奇遇、三時辞去、余別古田氏
於赤門傍

(5月27日 火)

此日フエノロサ氏行哲学科学期試業、余故不能出
席グロート氏、此日亦休課

(6月5日 木)

此日フエノロサ氏課業書ケアーンス氏理財要義

卷終、從次回新不用課業書、有口授與質疑耳

(6月6日 金)

此日午後文部省官吏及大学諸氏開親睦會於礪川
植物園、故木下氏及フエノロサ氏講義皆休課

(6月11日 水)

又フエノロサ・三嶋二氏因余等依頼休課

(6月12日 木)

フエノロサ氏休講理財学、有哲学講義

(6月13日 金)

木下氏及フエノロサ氏(理財学)講義以此日畢

(6月16日 月)

此日課業ラトケン、フエノロサ二氏耳、而皆以此
日畢、ラトケン氏終結國法学講義、フエノロサ氏
哲学講義尚餘ヘーゲル氏論理学一百枚餘、故以
明年再用此書

(6月24日 火)

此日理財学試業自八時至十一時、韓非子試業始自
午後一時終於三時、於是今学年試業全終

(10月2日 木)

自是日フエノロサ氏哲学課始、余則出席、而每木
曜日最初二時間也、余故出席第一時間耳、是日會
横田氏講義休課、是以二時間共得出席

(11月2日 日)

文学會以午前九時開會、余幹事当直故先期行、演
說者嘉納治五郎及フエノロサ二氏也、十一時五十
分散會

(11月4日 火)

是日フエノロサ氏休課、岩谷氏亦不来校

(11月6日 木)

是日亦フエノロサ・横田二氏休課

(11月11日 火)

是日フエノロサ・岡村・重野・岩谷四氏皆休課

(12月11日 木)

是日フエノロサ氏及岩谷氏休課

明治18年

(「明治十八年乙酉平年懷中日記」⁷⁾、縦13×横9

cm)

（1月1日 木）

午前七時起床、八時林政二郎来賀、直去、余次外出、行于本郷投名刺於ラトゲン・ストレンジ・フェノロサ・隈本有尚・グロート五氏、遇フェノロサ・隈本二氏

（2月5日 木）

此日フェノロサ氏・岩谷氏休課、午後ルドルフ亦休課

（2月10日 火）

（欄外注記）「送書於嘉納治五郎氏、書至自加藤江村」

（2月12日 木）

余送返書於^(坂)谷芳郎・加藤江村二氏、加藤氏曩送書、以余欲依頼書畫鑑定於フェノロサ氏、余則語之於氏、々告余、令加藤氏明日若明後日與余訪氏、余故送返書告之、且促其来日報知

（2月13日 金）

午前書至自加藤江村、告其此日午后所来、余則豫告之於フェノロサ氏、午後二時半加藤氏来、則伴至フェノロサ方請之鑑定、余為通辨、午后四時辞去

（2月14日 土）

郵便往復葉書至自加藤江村氏、余之見該種葉書、以是為始

（2月19日 木）

横田氏課業変更、為毎木曜日最初二時間、自是日実行、余故告之フェノロサ氏、改其木曜日第一時間講義為金曜日第四時間、変ラトケン氏課為第三

時間、皆諾、余満足

（2月20日 金）

自此日毎金曜日第四時有フェノロサ氏課業、余出席之、此日午時余帰夜再行（中略）余送返翰於加藤江村氏

（2月26日 木）

此日横田氏講刑法休治罪法、余故得出席於フェノロサ氏講義、此日了讀ヘーゲル氏論理哲学、蓋盡力於該書尅周年有餘於茲

（2月27日 金）

此日有時間都合ラトゲン氏休課、第四時有フェノロサ氏課業、此日唯問答ヘーゲル氏著書中事耳、自次回新開應用哲学講義

（3月3日 火）

自此日フェノロサ氏始應用哲学講義

（3月12日 木）

此日横田氏休課、則出席於フェノロサ氏講義、岩谷氏亦休課

（4月9日 木）

此日課業横田氏刑法講義及フェノロサ氏講義耳

（4月10日 金）

午前十一時止出席於フェノロサ氏課業、與薄定吉氏等行于浅草橋乘舟至向島、喫中餐

（とみぜん かずとし：東京大学経済学部資料室
学術支援専門職員）

1) 金井資料 4:6/15/1。

2) 同 4:6/15/8。

3) 同 4:6/14/1。

4) 同 4:6/14/2。

5) 同 4:6/14/3。

6) 同 4:6/14/4。

7) 同 4:6/14/5。